

## 2011年度（平成23年度）第1回福山市入札監視委員会会議概要

### 1 会議名

2011年度（平成23年度）第1回福山市入札監視委員会

### 2 開催日時・場所

2011年（平成23年）5月30日（月）午後2時30分～午後3時40分  
福山市役所議会棟3階 第5委員会室

### 3 出席委員

中山委員，相原委員，西原委員，坂本委員，小島委員

### 4 出席した職員

建設管理部長，農林土木部長，建築部長，下水道部長，水道局業務部長，水道局工務部長，水道局業務部参与，建設政策課長，契約課長，技術検査課長，農林整備課長，設備課長，建設第2課長，水道局配水課長

### 5 会議の概要

#### (1) 2010年度（平成22年度）の契約状況等について

契約課長から次のとおり説明を行った。

2010年度の福山市発注分の入札件数は933件で，その落札率は78.62%，ただし，最低制限価格を設定していない設計・施工一括方式の工事2件を除くと83.97%であった。福山市発注分の落札率が2008年度から上昇した要因としては，2005年度から段階的に公募型指名競争入札や条件付一般競争入札の対象を順次拡大したことにより，競争性が向上したものの，一方では，過度な低価格での受注による建設労働者や下請業者へのしわ寄せなどの懸念から，2007年度に低入札価格調査制度を廃止し，最低制限価格制度に一元化したこと，2008年度に企業の健全経営に配慮する観点から最低制限価格の算定基準の見直しを行ったこと，また，2008年末からの未曾有の経済危機に対応し，企業の健全経営の観点から2009年度において最低制限価格の見直しを行ったこと，更には，今日の厳しい経済状況や雇用情勢に対応するため，地元企業の更なる支援措置として，2010年3月から最低制限価格の更なる見直しを行ったことによるものと考えている。本年度の落札率は，昨年度と同程度で推移するものと予測している。

水道局発注分は168件で，落札率は84.22%であった。水道局発注分の落札率は，2008年度が若干高かったものの，2010年度の落札率と概ね1ポイント前後で推移している。

#### (2) 抽出案件の審議

ア 本浦・浦友地区中継ポンプ施設ポンプ設置工事（22-1）

イ 内海西部地区終末処理施設用地整備工事

- ウ 福山市深津住宅1号棟（22・高耐）建設給排水衛生設備工事
- エ 中央雨水滞水池築造工事【総合評価方式】
- オ 配水管布設工事（その3）（22 緊急経済分）

アからオについて、契約担当課長及び当該工事担当課長が、それぞれの工事について説明を行った。

(3) 入札及び契約手続の運用状況等についての報告

指名除外措置運用状況について、契約課長から取りまとめて報告を行った。

(4) 次回委員会の開催日時について

2011年（平成23年）9月中旬を目途に事務局で調整する。

(5) 次回委員会で審議の対象とする工事の抽出方法について

次回の事案の抽出は、2011年（平成23年）4月から7月分を対象とし、西原委員が担当する。

6 発言の趣旨

主な質疑応答は、次のとおりである。

抽出案件の審議

ア 本浦・浦友地区中継ポンプ施設ポンプ設置工事（22-1）について

Q1 農林整備課の案件で、落札率が79.3%と比較的低価格の落札となっている。入札参加業者が6社と他の案件と比較して非常に少ない。この工事と污水管布設工事（22-5工区）の2案件だけが工事費の割に参加業者が少ないのはなぜか。

A1 この工事は、管の布設工事とマンホールポンプの工事が複合的な工事となるため、入札参加資格要件について、管工事と機械器具設置工事の両方の資格を求めた。入札参加要件を満たす者は12社であり、手持ち工事のかかわりや、離島である走島町内の工事で、資機材等をフェリーにより運搬する段取りを必要とするなどの特殊性が要因であったのではないかと考えている。

また、污水管布設工事（22-5工区）についても、同様に走島町内の工事であり、資機材等の運搬の段取りやストックヤードの確保などの特殊性が要因であったのではないかと考えている。

Q2 これに関連して、ため池改修工事の3件を同じ業者が落札しているが、いずれも一桁の参加業者である。偶然の結果なのか。

A2 いずれも、ため池堤防の漏水を防止するために薬液注入するという特殊な工事であるため、県内に本店又は支店等を有する者としたものであるが、同種の施工実績を求めたことにより参加者が少なかったものと考えている。

イ 内海西部地区終末処理施設用地整備工事について

Q 3 条件付一般競争入札の中で、予定価格が高額な割には落札率が87.9%と高止まっているのはなぜなのか。

A 3 この工事の積算は、一般的な土木工事と比べて直接工事費の割合が10%程度高くなっている。これは、山部分の掘削土量が多いため、直接工事費に含まれる処分費等の割合が、一般的な土木工事と比較して高いことによるためである。その結果、積算に基づき算定された最低制限価格が一般的な土木工事と比較して高くなったことにより、落札率が高かったのではないかと考えている。

Q 4 内海町の現場へのアクセスは難しいのか。

A 4 橋が架かっているが、強風が吹くと通行が出来ないなど気象上の制約がある。

Q 5 抽出案件と同様に、下水道管渠耐震化工事の案件も工事費の割に落札率が88%程度と高めであり、参加業者数も一桁である。その理由を知りたい。

A 5 落札率が比較的高かったのは、直接工事費のうち、下水道管渠の更生材の占める割合が高く、その製造メーカーが限られ、安価な材料の調達が困難であったことが要因と考えている。また、参加業者数については、特殊な管渠更正工法の認定資格を持つ技術者を有する市内業者が限られたことによるものと考えている。

#### ウ 福山市深津住宅1号棟(22・高耐)建設給排水衛生設備工事について

Q 6 予定価格が高額であるが、参加業者が少ない。参加資格に制限があったのか。

A 6 本市においては、2009年(平成21年)7月から、緊急経済対策として、公共工事における市内企業の支援対策を定め、大規模工事であっても、可能な限り市内業者を対象とした共同企業体に発注するなど市内業者の受注機会の確保に努めていることから、市内業者による共同企業体方式とした。また、この工事は、7階建5千㎡を超える大規模工事であることから、一定の施工実績を求めることとしたものである。代表構成員の資格がある者は8社程度を確認しており、16社程度は参加可能であると考えていたが、自社の手持ち工事や配置予定の技術者の状況などを勘案する中で、このような結果になったのではないかと考えている。

Q 7 設備関連の工事は一桁の参加業者が多いのは偶然か。

A 7 工事内容により、特殊な工事であることや施工者が限られることなどによるものと考えている。

Q 8 ダイレクト方式ばかりで、他の入札方式は使われないのか。

A 8 建設工事や建設コンサルタント等の業務については、原則電子入札で行っているが、特殊な資格を求めるような業務の場合などについては、書面での入札も行っている。

#### エ 中央雨水滞水池築造工事【総合評価方式】について

Q 9 予定価格が今回の案件中最高額であり、総合評価方式であるのに2共同企業体しか参加しなかったのはなぜか。また、2社での競合にしては落札率が70%と低過ぎるように思えるが、価格の開きはどれくらいなのか。

A 9 この工事は、雨水滞水池の上部に高速ろ過施設を設置するため、維持管理費も含めたトータルコストを考慮し、設計・施工を行う企業の技術力を競うことで高い品質の施設建設が期待できることから、総合評価方式での設計・施工一括方式としたものである。

また、雨水滞水池や高速ろ過施設等の性能や品質確保を求めするために設計・施工一括方式としたことから、最低制限価格は設定しなかった。落札率が70%となった要因としては、ろ材洗浄排水槽を必要としない工夫による土木工事費の縮減と、高速ろ過施設の設備費の減によるものと考えている。工事費の差は、税抜きで2億8千万円であった。参加者が2共同企業体しかなかった理由は、高速ろ過施設の技術を持つ開発メーカーが3社程度であったことなどによるものではないかと考えている。

Q10 評価は、代表構成員のみを評価したものであるのか。

A10 企業の技術能力・社会貢献度等に関する事項のISO取得状況、障がい者の雇用状況や男女共同参画の取組状況について、各構成員のものも評価している。

オ 配水管布設工事（その3）（22 緊急経済分）について

Q11 水道局の案件の中では、緊急経済分の3件がいずれも85%以上と高止まる傾向である。緊急経済分はその性格上高止まりは仕方がないものなのか。

A11 この工事は、国の「円高・デフレ対応のための緊急経済対策」に係る補正予算に伴い、国庫補助事業として箕沖工業団地内へ工業用水道管を布設する工事である。上水道の配水管布設工事は、厚生労働省の算定基準に基づき積算しているが、この工事は、経済産業省の工業用水道事業費補助対象事業として、その算定基準に基づき積算している。工業用水道管は、材料費に係る経費率が厚生労働省の基準と比べて低く、工事価格も低めに算出される。現在の最低制限価格は、直接工事費や工事経費にそれぞれ一定の率を乗じて算出しているため、工事経費が工事価格に対して低い工業用水道管布設工事では、上水道の配水管布設工事に比べて落札率が高止まる結果となったものと考えている。